

広報 はむら

11月1日号
令和6(2024)年

広報 はむら 令和6年11月1日号

令和6(2024)年11月1日発行 第1128号 URL = <https://www.city.hamura.tokyo.jp/>
【発行】羽村市 【編集】羽村市秘書広報課 〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 ☎042-555-1111 ④336 FAX 042-554-2921

市民公募 Photo

「アンブレラ・ストリート」
撮影：鈴木 京子さん
場所：S&Dスポーツパーク富士見
(はむら市民と産業のまつり 2023 会場にて)
撮影日：令和5年11月4日

愛情ギュッとす〜っとはむら

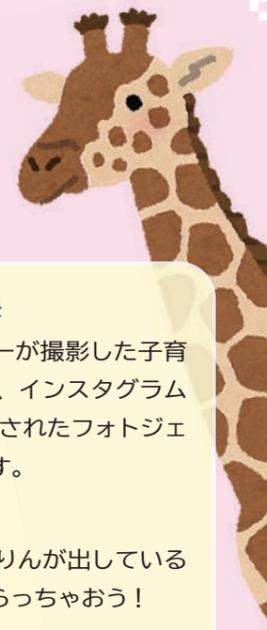


はむりに
会える!

はむら家族プロジェクト

愛情はむらまつり

～ヒノトントンZOOから、はむらのおすすめスポットへ～



親子で遊びながら、いつもと違うヒノトントンZOOで楽しんでみませんか。
来場者参加型の企画や、プレゼントも用意しています。

#愛情はむら写真展

プロのフォトグラファーが撮影した子育てを楽しむ家族の写真や、インスタグラムに「#愛情はむら」で投稿されたフォトジェニックな写真を展示します。

動物クイズラリー

園内に隠された、はむりんが出しているクイズに答えて景品をもらっちゃおう!

遊具で遊ぼう

普段、園内にはない遊具が大集合!
元気にたくさん遊んじゃおう!

日時 11月16日(土)・17日(日)の午前9時30分～午後3時30分

会場 ヒノトントンZOO

※入園料が必要です。

※詳しくは、市公式サイトを確認してください。

問合せ 秘書広報課広報・シティプロモーション係内339



||||||| ささまざまなことにチャレンジしているはむらのすごい人を紹介! |||||



はしもと 橋本 梢さん 【まあいいべ・とりあえず
笑おうプロジェクト代表/介護士】



「注文を間違える料理店『まちがえても maru カフェ』
を羽村市では初めて、ゆとろぎで開催。」

8月28日、この日は朝からゆとろぎコナモレが賑わっていました。「注文を間違える料理店『まちがえても maru カフェ』が開かれていたのです。」
「たどえ認知症があっても『生きていくための力』は誰にでもあつて、それを引き出すことができれば、いつまでも社会とつながっていることができる。このカフェは、介護士の和田 行男さんが始めた支援の一つの形です」
今回、その趣旨に賛同したボランティア十数人が集まり、カフェが実現しました。
ホールスタッフとして働く認知症の方は6人。市内のデイサービスやグループホームなどに声をかけたそうです。
「開店の時がちょっと大変でしたが、ホールスタッフの皆さんが上手に対応してくれました。もともと接客が好きでな方ばかりだったんです」
確かに、どのスタッフも良い表情で働いています。お客さんにも好評でした。
「今回はカフェの趣旨を理解しているお客さんばかりだったこともあり、『続けてほしい』『意義がある』などの励ましをいただきました。親子連れもいたり、年齢層は思っていたより幅広くかったです」



▲生き生きと働く
カフェのスタッフ

カフェを開こうと思ったのは、介護士として仕事で訪問に行く、周囲から認知症に対する否定的なイメージを感じるが多かったから、と橋本さんは言います。
「地域や社会が認知症を一括りにマイナスイメージで捉えているんです。でも、認知症だからといって何もできなくなるわけではないし、全てがネガティブではない。そういう現状を払しょくしたいと思いました」
大事なのは「大らかな」地域になること。「まあいいべ・とりあえず笑おう」の精神で、多少の失敗なども皆で笑い飛ばしてしまえる地域は、認知症の方だけでなく、きつと誰にとっても住みやすいまちでしょう。
「今回はカフェというイベントでしたが、認知症の方が当たり前前に社会に出てつながり続けられる地域になることが目標です。そのために、認知症について正しく理解して、怖いものではないと広く知ってほしいですね」と橋本さんは目を輝かせます。



広報はむらは再生紙を使用しています

市公式サイト



羽やすめ



X



Facebook



Instagram



YouTube

LINE

